第 38 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2008 年 11 月 1 日～3 日（和歌山大学）
セッション討議内容の記録

セッション名：公共交通（３）	
日付：１１月　３日（月）曜日、セッション時間：13:15～14:45	
司会者名（所属）：徳永幸之（宮城大学）	
討議内容	セッション全体： 本セッションの３編は，対象とした地域が大都市圏の住宅地，大都市圏の山間部，地方部と異なり，その検討方法も異なるが，いずれも地域の公共交通を維持するためには地域住民等を巻き込んだ議論が必要であるという認識では一致しており，そのことについて全体討議を行った。いずれも，住民らとの WS での成果はまだ十分とは言えないことから，手法論の研究とともに適用面での発展を期待して，セッションを閉じた。
	（277）　伊勢　昇　（大阪市立大学）： 本研究は，住宅団地のライフステージの変化を予測し，将来の地域の状況を地域住民など関係者で共有することで，持続可能なバスサービスのあり方について検討しようとするものであるが，比較的改変が容易であるバス計画において 10 年後，20 年後の姿を共有することに意義があるのかが議論になった。実際の WS では，将来の姿を見せたことで現在バスを利用していない人にも関心を持ってもらえたという報告がなされた。その他，中心商店街へ行くこと以外も考える必要があるのでは，バス以外の方策も考えられるのでは，という指摘があった。
	（278）　谷本真佑　（岩手大学）： 本研究は，民営バス路線が撤退した地域において，バスの社会的貢献への意識とバス路線維持に対する希望の関係について分析したものであるが，バス利用者と非利用者の意識の乖離の大きさや，民営バスが撤退しても患者輸送バスなどがあればいいと思っている地域において社会的貢献への意識だけで町営バスの維持ができるのか，といったことが議論された。
	（279）　吉田　樹　（首都大学東京）： 本研究は，大都市郊外山間部への DRT 適用可能性をシミュレーションによって検討したものであるが，検討地域とシミュレーションモデルに乖離があり，一般論としての議論と当該地域の問題で異なる印象を受けるとの指摘があった。また，DRT 以外にタクシー代の補助やゾーンバスなどの可能性についても議論がなされ，大都市圏では地方部より DRT などの受け皿に困ることなどが報告された。